

# 第48回天台青少年比叡山の集い

平和・生命・感謝・友情…多くを学んだ3日間

**コンパス**  
天台宗宗機顧問  
**杉谷義純**



## 短絡な善悪判断を超える 「はだしのゲン」騒動

「はだしのゲン」をめぐっての騒動が、島根県松江市で起こった。この本は原爆の悲惨さや戦争が生む人間の狂気を描いた、自伝的漫画である。そして六五〇万部も売れ、二十万国以上で翻訳され読まれている大ベストセラーだ。

この本が一時松江市の小中学校で自由に読めなくなった。その理由は、作品の後半に過激な描写があり、発達段階の子どもの目に触れるのは、ふさわしくないというのだ。この決定を下したのが松江市の教育委員会事務局であった。

ところがこの閲覧制限に対し、抗議が教育委員会に寄せられメデアが取り上げた。そこで松江市の教育委員会は、臨時会議を開き「はだしのゲン」閲覧制限措置をあっさり撤回したのである。今回の措置は事務局が教育委員会に相談していなかったため、手続上準備があったからというのである。だが教委事務局の要請が各学校に行われ、すでに半年以上が経過しており、単に手続不備で済まされる問題ではないと思うのだが。

新聞報道によれば、市民からの通報や市議会への陳情(市議会では否決)などがあり、教委事務局で「はだしのゲン」を読んだ結果、青少年への影響を考えて下した決定だという。それならばなおさら、教育委員会としては事務局の判断内容について触れるべきだったと思う。さらにその判断の是非を述べただけではなく、今日の青少年教育環境との関連の中で何らかの指針を示すべきではなかったか。

発達段階の子どもに対して、大人から見れば暴力的で刺激が強いと思われるものは、隠した方がよい。だが一方で、そういうものに触れなければ、子どもは健全に育つかということ、そういうものではないことも事実である。清潔にしてあげば病気になるかということ、行き過ぎれば抵抗力が弱くなり、むしろ危険な場合がある。抗菌グッズが人気を博す中、雑菌の有用品が叫ばれているゆえにある。

だからいたすらに問題だということ隠すのではなく、作者の意図を汲み取り得る教育が肝要となってくる。一方子どもに対する信頼も大切である。子どもは自分の理解を超えるものは、大人が想像するように吸収するものだ。

仏教では如来の悪といつて、仏の心の中にも悪が住んでいると考える。しかしその悪は、決して外に出ることなく完全に制御されている。もし仏に悪がなければ、悪が分らず悪事を止めさせたり、悪人を救えないからだ。だから如来の悪は善ということもできる。いずれにせよ善悪の判断は、画一的かつ短絡的にいくものではない。さらには「はだしのゲン」の今後の政治利用の気配を恐れる。



森川探題大僧正よりおかみそりを受ける

延暦寺会館を主会場に「第四十八回天台青少年比叡山の集い」が八月三日より五日までの日程で開催された。全国から百八十六名の小中学生が参加、宗祖伝教大師の御精神を学んだり、「世界平和祈りの集い」に参加するなど、三日間にわたり研鑽を積んだ。



世界平和を祈る折り鶴を奉納

初日午前には、根本中堂で結団式。糸瀬唯さん(九州西教区)から阿純孝宗務総長に、研修生の綴った作文「将来の夢」が奉納され、研修生全員で夢の実現を誓い合った。

午後からは大講堂で発心会が執り行われ、研修生は神妙な面持ちで、大導師の森川宏

## 他の人のために行動を

### 若い世代から提言 世界平和祈りの集い

「世界平和祈りの集い」で2人の若人が「平和」への提言を行った。他を思いやる心が溢れるスピーチに、参加者から賛同の拍手が湧き起こっていた。



比叡山高校生 渡邊愛衣さん

今の平和な状況に感謝すると共に、今度は私達がその感謝の心を、自分のことではなく、誰かの為に行動として表していきたいのです。一人ひとりの感謝に支えられた精一杯の行動が、もっと平和な世界を作ることになるでしょう。(抜粋)



天台青少年比叡山の集い研修生代表 佐伯頼賢君

どんな宗教・教えでも、人々が幸せに生活をし、平和な世界を実現することが一番大切だと思います。世界が、本当の意味で平和になる為には、先ずはお互いに顔を合わせ、話し合い、お互いにわかり合うことが大切だと思います。(抜粋)

わたるスケジュール。「世界平和祈りの集い」では、世界平和実現の祈りを込めた折り鶴を奉納、各班の代表九名が「世界平和の鐘」を打ち鳴らし、平和への祈りを捧げた。また、「平和への想い」と題して、佐伯頼賢君(埼玉

教区)が平和への提言を行った(別掲)。「世界平和祈りの集い」に先立ち、延暦寺会館において研修生の持ち寄った募金を、下山真里奈さん(群馬教区)が代表して一隅を照らす運動総本部に「貧困、飢餓、紛争などで苦しむ世界の

## 叡山学院入学生募集

本学は、延暦25年(806)1月26日、2名の年分學生が勅許されたことに由来する天台宗法嗣養成の最高学府です。伝教大師開宗の本旨に則った解行双修を旨とし、実践門の教育にも力を注いでいます。

学科	○総合学科(4年コース) ○基礎学科(2年コース) 主に高卒者 ○研究学科(2年コース) 主に短大・大卒者 ○専修学科 主に総合・研究学科卒、大卒者
入試	○推薦入試(総合学科・基礎学科のみ) 11月30日(土) ※願書締切11月22日(金) ○一般入試(一回目)1月18日(土) ※願書締切1月11日(土) (二回目)3月29日(土) ※願書締切3月15日(土)
学費	授業料 450,000円(年間) 入学費 150,000円(入学時のみ) 維持費 190,000円 諸費 10,000円

お問い合わせ・入学願書請求先 〒520-0113 大津市坂本4丁目9-21 叡山学院庶務課 電話:077(578)0029

## 総本山延暦寺御用達

清浄歓喜団 調進  
創業元和3年(1617年)

**清水屋**

〒本店/京都市東山区祇園石段下南  
605-電話/075-561-2181(代)  
0074 FAX/075-541-1034番

子ども達の為に役立てて下さい」と寄託。

夜の営火では突然の雨に見舞われたが、各班が練習をしてきたスタンツ(寸劇)が披露される頃には、会場は大いに盛り上がり、研修生たちもすっかり打ち解けた様子であった。

最終日、大講堂において修了式が執り行われた。阿宗務総長より研修生代表の鷹野領太君(神奈川教区)に修了証が授与された後、三日間にわたり研修生を照らし続けた不滅の法灯が返灯された。

この青少年比叡山の集いは昭和四十一年(一九六六)に宗祖伝教大師御生誕一千三百年を記念して始められたもの。「規律と合掌」をテーマに毎年実施され今回で四十八回を数える。

# SHINE A LIGHT

光を照らせ 19

ジャーナリスト  
日本ペンクラブ会員

田原由紀雄

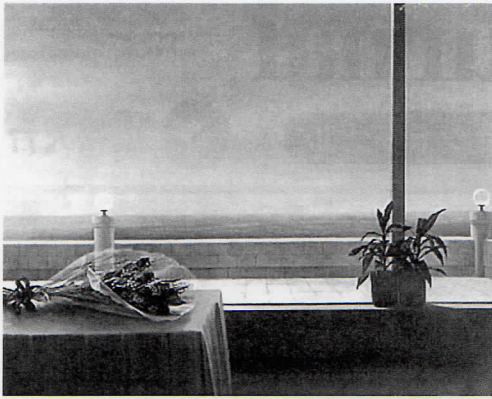
## 喪失と再生のブルー

色彩心理学によるとブルーは喪失と再生の色だとい

う。兵庫県西宮市在住の洋画家、井上よう子さんはフェルメールが愛したウルトラマリブルー、透明度のあるフタロシアニンブルー、メタリックなパールブルーなど様々なブルーが微妙な陰影を織りなす、幻想的でリリシズムにあふれた風景画を描き続けてきた。

一九五八年生まれ。京都市立芸術大学、同大学院で故三尾公三氏に師事。

画家としては申し分のない経歴だが、その歩みは決して平坦ではなかった。父の転勤で転居、転校を重ね、



井上よう子「遠い喧嘩」(1990年)

十五歳の時、二つ年上の姉が心を病んで自ら命を絶した。母は井上さんが長女を妊娠中、末期ガンと診断され五十五歳の若さで亡くなった。

神戸の海の近くに住んで幸せな日々を送った少女時代、ベランダからあきずに眺めた海辺の光景が心の原風景。大きな窓越しに海や砂浜が見える風景を好んで描く。

どこにも人影はないが、さりげなく置かれた花束、椅子などにはつい今しがたまでいた人の温もりが感じられる。はかなさ、あやうさが漂う静謐な画面には救済への希求を託した希望の光が差し込んでいる。

NPO法人「アーツプロジェクト」(大阪府豊中市、森口ゆたか理事長)の賛同人として、アートの力で病院などの医療環境をより快適な癒やし空間にすることを目指すホスピタルアートの運動に取り組む。

「四国(ごも)とおとなの医療センター」(香川県善通寺市)を多彩なアートとデザインで彩るプロジェクトの一環として病室に飾る絵画五点を描きあげた。「生と死は隣り合わせ。影があるから光は輝いて見える。静かなものこそ、時に強いメッセージを感じる。絵でも、人生でも…」と井上さん。

そのブルーはきっと多くの人々の心を癒やし続けるに違いない。雨上がりの青空を吹き渡るさわやかな風のように。

## ● ぐまめ の 歯 ぎしり

50

「居着く」というのは、武道の用語です。武術では軽やかなフットワークが要求されます。居着くとは、軽やかな身のこなしとは全く正反対の体の動きを指した言葉です。

それは、体が、カチカチになって進むことも、引くこともできなくなった状態のことです。

当然武道では「居着く」のは、最もよくない身体動作とされています。居着いた瞬間に、迫り来る相手の刃に切られてしまうからです。

宮本武蔵は五輪書の中で「太刀にても、手にて、いつくへんゆふ事をきりらぶが。」

## お互い様の心

今年の比叡山宗教サミットでは、比叡山高校の渡邊愛衣さんのスピーチ「お互い様の心」が印象的でした。

渡邊さんは、東日本大震災発生時に各国から救援隊や、救援物資が送られてきたことに触れています。その中には小さな島国や、貧しい国からの援助もありました。

震災発生時には、世界の様々な国の人々が、犠牲になった方々を悼み、復興に向けて祈りを捧げたと伝えられました。これなども「お互い様の心」といえると思います。

渡邊さんも指摘されているように、インド洋の小さな島国であるモルディブからは六十万個のツナ缶が贈られました。モルディブでは一個のツナ缶が数回分の食事に相当するくらい高価なものです。

## 鬼手仏心

天台宗法人部長 山田 亮清

アフガニスタンのカンタハルからは四百万円が届けられています。一日の生活費が約二百円という生活水準からみれば、相当な援助でしょう。

渡邊さんは、大震災のような大きな災害が起こってから、人と人が結びあうのではなく「お陰様」「お互い様」という人間同士が思いやり、感謝しあうことが、小さな日常の中で人々の心が結びついていような世界であって欲しいと述べました。青少年がこのような考えを持っていることに救われる思いがします。

黒住宗道黒住教副教主は渡邊さんのスピーチに対して「悲しみは、分かち合うことで、その辛さが薄められる。例えて言えば『割り算』のようなものである。また、喜びは分かち合うことで倍になる。それが『かけ算』である。当たり前にあることが、どんなに有り難いかを考えることが感謝につながる。生かされて生きているお陰様の心を大事に」と講評したのも有り難いことでした。



## 葉上観行

岡山教区・日光寺  
住職

いつくは、しめる手なり(水の巻)と書いています。固定化したり、動かなくなったりするものは、たまたに死を意味するといふのです。

居着くは必敗なのは武術に限りません。あらゆるスポーツや将棋囲碁の勝負事、また日常生活の殆どに当てはまることでしょう。相手をよく見ながら、ずらしたり、はずしたりというフットワークを駆使することが勝利をもたらすことは経験上よく知られています。

けれども、私たち凡夫は、逆に常に「居着く」ようにホジションをとりがちです。その方が楽だからです。

例えば、マニュアルです。「千円からお預かりします」「コーヒーのほう、お待ちしました」という言葉づかいが奇妙だと指摘されても「居着いた」ものは、なかなか改まりません。

居着くというのは、また体の自由を奪われてしまう状態でもあります。相手がどうであるかという「待ち」の姿勢です。実力が互角の者であれば、先手をとった方が勝つというのがあらゆる世界でのセオリーですが、待ちの姿勢にある限り先手を取ることはできません。

居着く原因のひとつは「執着する心」です。「相手がどう出るか」「相手は何を考えているのか」等々、ああでもない、こうでもない迷う心が足を止め、手を止めてしまうのです。なににも自然体で接することが居着かないコツのように思われます。